

藤並の森 vol.100



アトリエの柴田ケイコさん

最初にお仕事をいただいたイラストが世に出た時、自分の作品が誰かの役に立った喜びは今まで覚えてています。仕事の数はとても少なかつたけれど、目の前にいる人に喜んでいただくことがとても嬉しく思えました。それから20年、今はありがたいことにイラストのお仕事に限らず絵本や講演会までのお仕事をいただくようになりましたが、それもこれも1人では絶対できなかったことです。家族や友人、出会ったお仕事関係の方々に助

気がつけば画業をして20年が経っていました。ですが正直20年なんてまだまだ未熟者を感じている毎日です。

展示をするにあたって昔のイラストをあらためて確認するとたどつてきた足跡を見たようで感慨深い気持ちになりました。

思い起こせばイラストレーターをはじめた頃は生活できるか不安な毎日。まずは10年なんとしても続けよう、そう思つていました。

最初にお仕事をいただいたイラストが世に出た時、自分の作品が誰かの役に立った喜びは今まで覚えてています。仕事の数はとても少なかつたけれど、目の前にいる人に喜んでいただくことがとても嬉しく思えました。それから20年、今はありがたいことにイラストのお仕事に限らず絵本や講演会までのお仕事をいただくようになりましたが、それもこれも1人では絶対できなかったことです。家族や友人、出会ったお仕事関係の方々に助けていただきながらなんとかでききました。

本当に日々助けられながら生きています。

そんな私が一つ自分でも助けられたのは「絵を描く事が楽しい」という気持ちに出会えた事です。決して好きが必ずしも仕事にできるではありませんし、楽しいから上手ということでもありません。ただ私には逆から言うとそれしかできる事がなかつたのです。いわばそれしか選択がなかつたという事です。でも今考えるとそれはとてもラッキーだったと思えます。

そんな流れで歩んできた私の作品ですが少しでもこの展示で笑い声が生まれる楽しい会場になればいいなと思つております。これまで怒涛に手配していた高知県立文学館の皆様、見守ってくれた家族、手伝ってくれた沢山の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。どうぞ心置きなくご覧ください。

(絵本作家)

20年からのスタート

柴田ケイコ

リレー随筆

柴田ケイコ展

～ちゃかぽこカーニバル～

2023. 2/4 土 ▶ 3/26 日

「柴田ケイコ」を知ってる人も、知らない人もよっといで！

楽しいカーニバル、大好評で開催中～！

現在、高知県立文学館では高知県在住のイラストレーター・絵本作家である柴田ケイコさんの絵本原画を展示しています。

絵本『パンどろぼう』が第1回 TSUTAYAえほん大賞 第1回リブロ絵本大賞、第13回MOE絵本屋さん大賞2020第2位など多くの賞を受賞した柴田ケイコさん。これまで数々の絵本を刊行し、子どもから大人まで多くの人に親しまれきました。

本展では柴田ケイコさんに全面的にご協力いただき、柴田ケイコ

さんからお客様にむけたメッセージや、イラストレーターとして活動をはじめた頃の初期作品から『めがねこ』『ドーナツベンタくん』などの人気絵本の原画まで、約190点の貴重な資料を展示しています。

なかでもご注目いただきたいのが、本展のために柴田さんが新しく制作した「ヒゲ

をはやってみようパネル」や、コメツブアート、輪投げコーンです。

「ヒゲをはやってみようパネル」は絵に描



「柴田ケイコ展～ちゃかぽこカーニバル～」3月26日(日)まで開催しています。柴田さんの愛とユーモアあふれる素敵な世界にぜひお越しください。

(学芸課／福富陽子)

ショッピング

柴田ケイコ展をご覧になりました後は、ぜひ一階ミュージアムショップにお立ち寄りください。

(総務事業課／北川智絵)

かれた人物のヒゲをひっぱると裏面に描かれたアゴヒゲアザラシのヒゲが縮むユーモラスな仕掛けとなつており、コメッツブアートの米粒には一粒一粒に名前と年齢があり、頭文字を読んでいくとある仕掛けが施されています。

このように、細かい部分にまで「大人にも子どもにも楽しんでいたきたい！」と願う柴田さんのこだわりや優しさを感じられ、土日はもちろんのこと、平日でも小さな子どもの笑い声が絶えないあたたかな展覧会となっています。

また、今回は「絵本を生み出す側」である関係者からコメントをいただきました。編集者、仕事仲間、友人、家族として柴田さんと関わりの深い皆さんからのコメントには、絵本が生まれたきっかけや、柴田さんの素顔など、知られざる貴重なエピソードが満載です。ぜひ会場でご覧ください。

たきつかけや、柴田さんの人気のパンどろぼうシ

リーズやしろくまシリーズ、めがねこなど、柴田さんの絵本も多く取り揃えています。

どれも柴田さんのユーモラスでたたかみのあるイラストが描かれていて、思わず手に取りたくなるようなかわいい商品ばかりです。

だんだんと春めいてきて、桜の花が咲く季節が近づいてきました。

ミュージアムショップでは、只今開催中の企画展

「柴田ケイコ展～ちゃかぽこカーニバル～」にあわせ、柴田ケイコさんのグッズを販売しています。

ポストカード、メモ帳、マスキングテープやクリアファイルをはじめ、マグ・ハンカチ・ランチバッグなどたくさんの商品をご用意しています。

柴田ケイコさんのユーモラスでたたかみのあるイラストが描かれていて、思わず手に取りたくなるようなかわいい商品ばかりです。

「生誕120年記念 上林暁展」

レポート

企画展「生誕120年記念 上林暁展」終了しました。

「生誕120年記念 上林暁展」が、令和5年1月26日(木)に終了しました。

実は、翌日の27日(金)に「上林暁展」をご覧になりたいと、文学館に来られたお客様がいらっしゃった。そこで、前日の終了をお伝えすると、とても残念がつておられたとのこと、本展は、平日の終了となっていましたので、お客様にはご迷惑をおかけいたしました。

さて、今回の展覧会では、高知出身の私小説作家上林暁の人と文学を紹介するとともに、私小説の変遷にも触れました。

また、作中「一人称」を用いながらも私小説に対して、上林とは違った見解を持つ大江健三郎の文学や、昨年亡くなった私小説作家西村賢太の文学にも目を向けました。

今回の目玉は、上林暁や西村賢太などの直筆原稿や田中英光などの新資料であり、圧巻は、上林が元気な時に右手で書いた原稿、二度目の脳溢血で右半身が不随となり、口実筆記を経て左手で書いた原稿、さらには絶筆「秀夫君」などの原稿類です。

これらの資料からは、上林の文学

に対する真摯な姿勢を読み取ることができる、来館者からは、感嘆の声を賜りました。

資料に関しては、多くの方々にご協力いただきました。

上林暁が左手で執筆した草稿をご寄贈くださいました上林暁のご長女大熊伊禰子氏。上林暁資料をお貸しくださいた、高知県黒潮町の上林暁文学館。

西村賢太資料借用の際にご尽力賜りました各出版社の皆様。西村資料をお貸しくださいた、石川近代文学館。

西村賢太所蔵の田中英光資料に関する、高知県への寄贈をご決断くださった西村氏のご遺族の皆様。

さらには、大江健三郎コーナーの監修と執筆にご協力賜りました、東京大学大学院総合文化研究科准教授の村上克尚氏「祖父の思い出」をご執筆くださいた令孫の大熊平城氏。

皆さまのお陰を持ちまして、新資料を全面に押し出し、展覧会を開催することができました。関係各位に心よりお礼申し上げます。

また、12月18日(日)には、文芸評論

家であり、鎌倉文学館の館長 富岡

幸一郎氏による記念講演会「私小説の生き方 上林暁に寄せて」を開催。参加者は、私小説の魅力を語る富岡氏のユーモアあふれる講義に聞き入っていました。

1月4日(水)には、新春ロビーコンサートを開催しました。「作家が愛した音楽」と題し、ショパン「ノクターン 遺作(嬰ハ短調)」やシベリウスの「もみのき」などを演奏、さらには、

大江光さんの作品を藤原鈴佳さん(ピアノ)と下保幸美さん(フルート)に演奏していただきました。

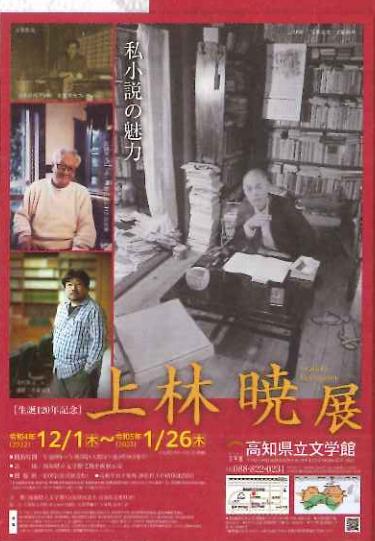
「プロの演奏を間近で聞くことが出来て感動した」と参加者からは、大きな拍手が贈られていました。

また、「サイズを通して上林暁やその他の作家を知ろう」には、観覧者のほとんどが参加してくださり、1~2時間かけて、じっくり問題に取り組んでいました。

今回、多くの資料の寄贈収集につながったことは大きな成果だったと思います。

本展が私小説を理解する一助になつたとすれば幸いです。

(学芸課長／津田加須子)



藤並の森

2023.03

100号に想う

館長エッセイ

高知県立文学館ニュース「藤並の森」は、今回、節目の第100号を迎えた。

第1号の発行は、四半世紀前の平成10年7月。このわずか2か月後、いわゆる98豪雨が県中部を襲い、高知市を中心に各所に甚大な被害をもたらした。翌年1月発行の第3号の文学館日誌の欄には、「9月25日前夜來の豪雨で交通マヒ。幸い資料等に被害無し」との記録があるが、被災状況の調査などに奔走した記憶が鮮明によみがえる、私にとっても忘れられない年である。

さて、その記念すべき第1号を開くと、今では「親子で楽しめる展覧会」をコンセプトとしている夏季の企画展が、当時は「夏目漱石・芥川龍之介展」という大人向けの内容であつたことや、現在も続く小中学生の朗読コンクールが既にスタートしていたことなどを知ることができる。

四半世紀の間に、何が変わり、何が変わらず継続してきたのか、また、その背景には何があつたのか、「藤並の森」には、文学館の歩みが凝縮された形で記されているように思う。

30年ほど前、講演のために来高いただいた木村尚三郎先生の著書のタイトル「ふりかえれば未来」ではないが、振り返りから学びが文学館の未来につながることをあらためて認識しながら、バッカンバーをめくつっている。

(松尾晋次)

高知県立文学館の館報「藤並の森」が、第100号を迎えました。館報第1号が発行されたのは、平成10(1998)年7月11日、外壁に五色の石を埋め込んだ高知県立文学館が開館して9か月後のことでした。文学館が位置するこの一帯は、藤並の森と呼ばれ、県民に親しまれています。

かつてこの場所には、藤並神社がありました。この神社は、文化3(1806)年、土佐藩十代藩主山内豊策が創建し、初代藩主一豊と妻の見性院と二代藩主忠義を祀ったのが起源となっています。

森では、「木漏れ日コンサート」が定期的に開催され、秋になると、ドングリや椎の実などを採り、子どもたちの元気な声が聞こえてきます。

文学館では、文学を通して人々の心に憩いや潤いをお届けしたい。そんな願いを込めて館報「藤並の森」を発行しました。

卷頭エッセイの執筆者は、名誉館長も務めてくださった安岡章太郎、作家の加賀乙彦、瀬戸内寂聴、宮尾登美子、宮地佐一郎、西村賢太、山本一力、全国文学館協議会を立ち上げた詩人の中村稔、早稲田大学名誉教授の紅野敏郎、学

習院大学教授の十川信介ほか、各大学の名誉教授や教授、各館の館長も投稿してくれています。錚々たる顔ぶれです。

そんな中、第57号に宮尾登美子が「『藤並の森』の思い出」を書いてくださっているのも、この森への郷愁所以なのでしょう。

紙面の関係で、全ての方々のお名前を紹介できないのがとても残念です。

また、当館の館報の特色として上げられるコーナーに「土佐文学さんぽ」があります。

このコーナーは、高知にまつわる作品や文学者ゆかりの地を訪ね、作品の背景となつたエピソードや作家のルーツ・精神的なバックボーンなどを紹介しています。

第1号は高知大学名誉教授の岡林清水、第3号からフリー編集者の国則三雄志。その後、詩人の猪野睦、高知高専名誉教授の高橋正、郷土史家の谷是と現在もバトンは続いています。

「藤並の森」は、これからも皆様とともに歩んでまいります。見かけましたら、是非、お手に取ってご覧ください。(敬称略)

(学芸課長／津田加須子)

幅広い知識と、洗練された文体 隨筆の達人・阿部孝

谷 是

かつて土佐には、隨筆の達人と言われた人が数人いた。その筆頭が、阿部孝である。明治二十八年八月岩手県花巻に生まれた。県立盛岡中学校で宮沢賢治と同級の親友。「君は散文をやれ、僕は詩をやる」と言われた仲。這い松のなだらを行きて息はける、阿部のたかしは、がま仙に肖る」と賢治の作品にある。一人で岩手山に登った時の作品。旧制第一高等學校から東京帝國大學文學部英文科を卒業。名古屋の愛知第一中学校をへて、旧制高知高校(現高知大学)開校時に来高、教授となつた。在職中、在外研究員として欧米留学。英國劇の研究者として日本的に知られ「英國劇講話」「英國戯曲史」英米文學評伝叢書「パリー」「ゴールスワージ」などの著書と共に、的確な表現の名講義は、生徒の信望を集めめた。戦後二十四年高知大学発足と共に、文理学部長に就任、第二代学長となつた。創業時の学長として、学舎の建設、人材の確保、好ましい学風の確立などに尽瘁したが、青年時代からチエホフ、白樺派の有島武郎などの影響を受け、現実を直視。人を透徹した史觀を有し、當時比類のない東西にわたる幅広い知識と、するどい社会批評は、洗い尽され、吟味された文体と共に、絶賛された。教え児の高知新聞社長・福田義郎の要請により、晚年同社の客員となり、月に一回同紙に寄せた隨筆は、後年「甘口辛口」として四十

年出版文化賞、四十二年「ばら色のばら」はエッセイスト・クラブ賞を受賞した。ユーモアとエスプリに満ちた、一語の無駄もない文体は、高知県文化賞、四国文化賞などにも評価されたが、自宅の丸の内の南側高知城の北麓に続く、俗に「スベリ山」の一角を、一人散策、思索する長身の姿は「哲人、文学者、知識人」の究極の姿とも称され、「高知文化のシンボル」と言われた評もあつた。しかし老齢やみがたく、五十六年間の在高生活を切り上げ、東京都小金井市本町親族のいる家に移り、昭和五十九年四月、八十八歳で逝去。高知文化“に尽した生涯を終えた。

(郷土史家)



老来・阿部孝が散策した、高知市丸の内・自宅に続く、高知城北麓の“スベリ山”

常設展 企画コーナー 入れ替えのご案内

牧野富太郎と 佐川の文学展

紹介

令和5年3月25日土
(令和6年3月下旬(予定)

4月から始まるNHK連続テレビ小説の主人公モデルに牧野富太郎博士が選ばれました。富太郎は高知県佐川町(旧佐川村)出身の植物学者です。特別なきっかけがあつたわけではありませんが、植物の魅力に惹かれ植物学を志すようになります。文学館では「牧野富太郎と佐川の文学展」と題し富太郎と佐川の文学者を紹介する展覧会を行います。富太郎が遺した名言や都々逸はユーモアがあり植物愛に満ちていますが、戦争を経験した富太郎の平和への願いも込められているものがあります。また連續テレビ小説のモデルになつたことで注目され、関連書籍を書店等で数多く見かけるようになりましたが、富太郎を題材にした書籍の展示と紹介を行います。さらに、富太郎は日本最古の和歌集である万葉集に関心を持っています。万葉集に登場する植物に関する「牧野万葉植物図鑑」が富太郎の子孫らにより昨年11月に出版されたことは記憶に新しいですが、その図鑑をピックアップしたミニコーナーも設けます。

一方で、佐川は古くから山内家の筆頭家臣深尾氏が治めた土地です。深尾氏が儒学をはじめとする学問を振興したため、文教の地として栄えました。牧野富太郎も幼少期に藩校「名教館」で最新の幅広い学問を学びました。

そんな佐川からは著名な文学者が誕生しています。雑誌「新青年」の編集長を務め横溝正史などの探偵小説家を発掘した森下雨村は日本における探偵小説を普及させ、自身も小説を創作し海外の小説の翻訳を手掛けました。晩年は佐川に戻り釣りや農業をして過ごしたようです。随筆家、方言研究家の土井八枝は深尾氏家臣の娘として生まれ、詩人の土井晩翠と結婚、隨筆や方言の研究書を記しました。「死」と「性」を主題とした作品で知られ、直木賞や柴田錬三郎賞など数々の賞を受賞した坂東真砂子も佐川の出身です。

文学館の視点での「牧野富太郎と佐川の文学展」にどうぞお越しください。

(学芸課／笠岡花菜子)



出典:「近代日本人の肖像」
(国立国会図書館)

4月開催!!



©池田理代子プロダクション

※当館では宝塚歌劇の「ベルサイユのばら」の展示はございません。

check!

4月以降の企画展ご案内



日本海山潮陸図(1691年)国土地理院
ウェブサイトデータをもとに作成

時代小説と歴史小説展 —江戸時代を生きる、今を生きる

令和6年1月20日(土)~3月24日(日)
場所:企画展示室
観覧料:500円(常設展含む)

市井の人や剣豪などを書く時代小説、史実に忠実な歴史小説。これらの作品は義理と人情、志と野望、時に非業な運命など様々な美意識を映し出し、愛読者も多くいます。

今回は江戸時代を題材とした作品を取り上げ、高知県出身で現在活躍中の志水辰夫、辻堂魁、山本一力、藤原絢沙子、畠中恵らの時代小説と、令和5年に生誕125年となる井伏鱒二、生誕100年となる司馬遼太郎などをはじめとする高知ゆかりの作家の歴史小説を紹介します。

本展では、貴重な原画約180点や作中のオスカルのドレスを再現した展示、当時一大ブームを巻き起こしたアニメ「ベルサイユのばら」のセル画など貴重な資料を交えながら、この不朽の名作の軌跡をたどります。

(学芸課／岡本美和)



©2018 朝霧カフカ・春河35/KADOKAWA/
文豪ストレイドッグスDA製作委員会

めざめる探偵たち ～文豪ストレイドッグス×高知県立文学館～

令和5年10月7日(土)
～令和6年1月8日(月・祝)
観覧料:500円(常設展含む)

今年は江戸川乱歩が雑誌「新青年」で作家デビューしてから100周年を迎えます。この「新青年」の編集長を務め、乱歩を発掘したのが高知県出身の森下雨村でした。

本展では、乱歩や横溝正史に影響を与えた日本探偵小説の礎を築いた高知県出身の3人の文学者(黒岩涙香・馬場孤蝶・森下雨村)に焦点をあて、日本探偵小説の黎明期を多彩な切り口でご紹介します。「文豪ストレイドッグス」とのコラボ第二弾にもご注目ください。



ジョン・テニエル画
『不思議の国のアリスより』

アリスの世界展 —不思議な冒險の招待状—

令和5年7月8日(土)
～9月18日(月・祝)
観覧料:500円(常設展含む)

イギリスのルイス・キャロルが今から150年以上前に執筆した物語『不思議の国のアリス』『鏡の国のアリス』を通して、皆さんを不思議な世界の入口へと誘います。

「アリス」の世界には数学や論理学の知見や、言葉遊び、マザーグースなどさまざまな要素が詰まっています。「アリス」の奇妙で愛すべき物語世界を楽しみながら、その先の不思議も少しだけのぞき込む、そんな冒險へ皆さんをご招待します。

高知県立文学館 カレンダー



開催中

柴田ケイコ展

～ちゃかぽこカーニバル～

2023.2/4(土)▶3/26(日) 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)



会場 高知県立文学館 2階 企画展示室 観覧料 500円(常設展含む)長寿手帳等お持ちの方・高校生以下は無料

展覧会の紹介をしています! 詳しくは表紙・2ページ目をご覧ください。

関連企画

ちゃかぽこバレンタイン&ちゃかぽこホワイトデー!

特別な日に、この時期限定のスタンプラリーを開催します! スタンプを集めてオリジナルメッセージカードをもらおう!(※2月と3月では絵柄が違います)

開催日時 令和5年3月11日(土)

3月12日(日)

各日とも午前9時～16時

定員 なし※事前申し込みは不要です。

場所 文学館2F

参加条件 当日の観覧券が必要です。



あつまれ! 柴田ケイコ応援大使(展示解説)

「柴田ケイコ応援大使」となって担当芸員とともに展示解説をしてみませんか? あなたのお気に入りの作品や絵について「好き!」と思うところをお客様にアピールしていただけます。(説明時間:10分ほど。芸員がサポートします。)

※電話または文学館受付にて事前の申込みが必要です。

開催日時 3月4日(土)、3月5日(日)、3月18日(土)、3月19日(日)
3月21日(火・祝)、3月25日(土)各日とも午後1時30分～午後2時

場所 文学館2F企画展示室

定員 各回3名※事前の申込みが必要です。希望の日をお知らせください(先着)

参加条件 小学生～大人まで、どなたでもご参加いただけます。

※低学年のお子様は必ず保護者の付き添いをお願いします。(要観覧券)



次回開催!!



誕生50周年記念

ベルサイユのばら展

ベルばらは永遠に

会期 令和5(2023)年

4月8日(土)～6月18日(日)

場所 企画展示室

観覧料 500円(常設展含む)

長寿手帳等お持ちの方・高校生以下は無料

©池田理代子プロダクション

展覧会の紹介をしています! 詳しくは7ページ目をご覧ください。

- 新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みにご協力をお願いします。
(マスクの着用・手指のアルコール消毒・適切な距離を保つての鑑賞・イベント時のホール入場前の検温など)
- 新型コロナウイルスの感染拡大状況によって、展覧会及びイベントは内容変更または中止となる場合があります。

高知県立文学館で開催する企画展・その他事業は職員全員で消毒・清掃を行い、安心・安全に利用いただけるよう感染予防・拡大防止対策を行っております。

利用案内

開館時間 午前9時～午後5時(入館は、午後4時半まで)

休館日 年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休。

※その他メンテナンス等で臨時休館することもあります。

常設展一般370円 企画展はそれぞれ異なります。

20名以上の団体は2割引。高校生以下無料。

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者(1名)、高知県・高知市長寿手帳をお持ちの方は無料です。

(窓口で手帳等のご提示をお願いする場合があります)

なし。ただし近辺に有料駐車場があります。

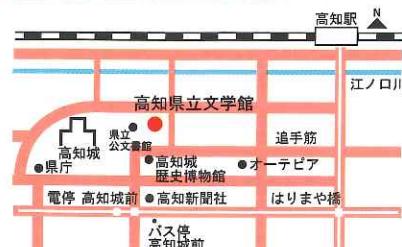
ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、

茶室「慶雲庵」

企画展示室、ホール、茶室

貸出施設運営 公益財団法人 高知県文化財団

交通のご案内



●JR高知駅から徒歩20分
(またはバス・路面電車を利用)

●バス・路面電車「高知城前」から徒歩5分

●高知龍馬空港から空港連絡バス「北はりまや橋」
下車、徒歩20分

〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目1-20
電話 088-822-0231
FAX 088-871-7857

高知県立文学館 検索

